

馬 県 立 桐 生 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表（全日制）（令和6年度版）			（別紙様式）					
羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケー ト等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は1・2年生が85%以上、3年生が90%以上である。	生徒及び教職員間でスクールポリシーを共有し、行事等とおして大規模校・共学校としての良さや本校の特長を生徒に伝える。	A	B	A	3学年と2学年がわずかに目標値を下回ってしまっしたが、全校では昨年度を上回っている。特に1年生については93.1%に達し、3年間の本校の教育への期待が大きいことがうかがえる。今後も校長のリーダーシップのもと、3つのポリシーに基づき、3年間での人間育成を目指していきたい。	・探究では、他学年の発表見学や井戸端ミーティングなど学びの深まりにつながる取り組みがみられる。 ・探究の活動では、グループの中でよく活動する生徒とあまり生徒がはつきりしている。苦勞してでも活動する意味はある。非認知能力の育成のために探究をその糧としてほしい。また、生徒全員がしっかり取り組めるよう各生徒の取り組み方についての評価も必要であり、それによって生徒の心構えも違ってくるのではないかと。 ・生徒が将来の自分を想像できる活動が必要と思われる。志を持ち、10年後の自分、5年後の自分を想像し、そのために今何をしなければならぬかを自分で考える桐高であれば特色がある学校になる。
		②部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が75%以上である。	部活動や特別活動を通して、人間力が向上できるように主体的な活動を促していく。	A	A	A	・本年度は大運動会であったが、桐高生として主体的に取り組み、充実した時間を過ごせたものと思う。部活動に関しては各々目標を持って入部し、頑張っている証である。次年度も引き続き主体的に取り組む土雰囲気を作っていくことが肝心である。	
		③SSHを含む探究の活動について、成果があがっていると評価する教員が75%以上である。また、充実感を持って取り組んでいる生徒が75%以上である。	探究活動を充実させるための方策の一環として、同学年の職員だけでなく異学年・同領域の職員間で共有・相談できる場を設定し、生徒の活動を支援する体制を整える。また「学びの技法実践編」を活用して、校内発表会に向けた生徒の探究活動を支援するとともに、発表会やSSHの諸行事の様子や成果を校内外へ発信し、探究・SSHの取組の意義や有用性を周知する。	B	B	B	生徒の達成度に関しては、79.5%であり、昨年度よりも2.9ポイント上昇した。学年別では、1学年が85.1%、2学年が78.6%、3学年が83.1%であった。また、教職員の達成度に関しては、81.0%であり、昨年度よりも8.8ポイント上昇した。この結果は、今年度新たに教職員や生徒を対象として、探究の活動に関わる方策を継承・共有する場を設定したこと起因すると考えられる。したがって次年度に向けて、継承・共有の場の設定だけでなく、探究の活動に関わる方策や資料のマニュアル化・データベース化を推進したい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業を工夫するなどして、生徒の実態に応じた指導を行っている教員が90%以上である。	授業研修（年2回以上）により、指導力及び生徒理解力の向上を図る。	B	A	A	ほぼ昨年と同様の結果であるが、授業の工夫について満足する生徒が増加傾向にある。また、保護者、教職員も同様の傾向である。保護者への授業公開により、本校の取り組みについての理解を深めていただき、教職員の授業改善への意欲の原動力としていきたい。また、引き続き校内の授業研修を高いレベルで展開していきたい。	・生徒はよく勉強している。学力向上に直結していると思われる。 ・保護者の見方が厳しいのは、保護者の、子供自体の伸びが感じられなかった、という漠然とした不安からと考えられる。全国を相手にする大学受験の不安から、やや厳しい評価になるのかもれない。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤教科学力が向上したと感じる生徒が70%以上である。	客観的に自己の学力の伸長をはかるため、模擬試験実施前に中期的な目標を立てさせ、模擬試験（偏差値・得点率・全国順位）などの伸びを把握させる。	B	B	B	全学年生徒の結果が目標に達することができた。ただし、1・2年の保護者の見方もとても厳しい結果である。各学年通信や進路講演会において、学力の推移を視覚化したうえで積極的に伝える工夫を重ねているが、実感できるところまでには至っていないようである。さらに、進路指導部との連携を強化し、進路意識の醸成を図ることにより学習への意欲を高めていきたい。さらに、各学年での具体策の作成を促していきたい。	・志を持てば、意欲をもって学習に向かう。たとえ少数でもそのような学生が増えれば学校は変わっていく。
	Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥学級担任による個人面談を、年3回以上実施している。	生徒理解を深めるため、定期面談以外にも必要に応じて実施する。	B	B	B	・面談期間以外でも学年主導で面談を実施し、生徒理解に努めている。面談で得た情報については学年間・教科間で共有し指導に生かせるよう努めている。保護者のアンケートからは、進路相談がしづらいという評価もあったので、教員が進路指導を行ううえで必要な知識や情報を共有することが重要と考える。
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。		⑦生徒に対して、挨拶、服装、交通マナー等についての指導を月1回以上行う。	規範意識の向上を図るため登校時指導やPTA運動、日常生活の中で適宜指導していく。	B	A	B	・生徒、保護者ともに社会的なルールやマナーを守っていると回答されているが、教職員の中での達成度が低い。「ながらスマホ」などの問題も完全に解決されたわけではなく引き続き、いろいろな場面で規範意識の向上を図っていきたい。	・いじめやその他の生徒指導上の問題については、きめの細かいケアをお願いしたい。 ・目的をもって指導を行えば生徒の充実感が増していく。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧本校は「いじめ防止活動」に取り組んでいると評価している生徒が、80%以上である。	いじめ防止活動を計画に基づいて生徒会を中心に実施し、学校行事やあいさつ運動等の中で呼びかけていく。	B	B	B	・生徒や保護者については健康に注意して過ごしているという回答が大勢をしめていたが、実際の欠席者数、遅刻者数は新生桐生高校となってからは一番多い割合である。一層の相談体制の充実と啓発活動を実施していきたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨1日あたりの欠席、遅刻、早退の合計人数は全生徒数の3%以内である。	長期欠席等を引き起こさないよう、教育相談体制の充実に取り組んでいく。	B	A	B	・教職員、生徒、保護者ともに90%近くの回答が良好であった。引き続き生徒への注意喚起をいろいろな機会を捉えて実践し、また生徒会が主体となって取り組んでいく環境を作していきたい。	・インターンシップも充実している。生徒にとっては貴重な体験である。短時間でも経験できるとよい。桐生市は人口減少が進んできているが、Uターンを見据えて、地域の特色ある産業分野との協力も可能なのではないかと。
		⑩ルールを守り、規則正しい生活を送っていると自己評価している生徒が80%以上である。	規範や健康意識への向上を図るため、生徒会からの呼びかけや集会等での注意喚起を行う。	B	A	A	・進路学習会や学年集会などにおいて、キャリア意識が向上するような情報を提供しよう努めた。大学入試の大きな変革期に生徒・保護者がどのような情報を求めているかニーズを調査し的確な情報提供ができるようにしたい。	・生徒がなりたいた自分を見つければ主体的に勉強する。OB、OGだけでなく、いろいろな分野の人を呼び、生徒と話し合うことが大事だと思う。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪キャリア教育や進路学習会等において、進路意識が高まったと評価している生徒が75%以上である。	学年集会・進路学習会を行う際、何を意図するかを明確にし、生徒が欲している情報に即した内容にするよう努める。	B	A	A	・「進路ニュース」を学期に1度（面談の時期）に発行し、生徒保護者の意識喚起を図ったところ、昨年より満足度が上昇した。「進路の手引き」については改善の余地が大いにあるので、今後も多角度から本校の進路の実態を検証し、生徒の進路実現達成のために必要な情報を提供したい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫進路ニュース・進路だより等で、必要な情報が得られていると評価している生徒が、75%以上である。	進路ニュース・進路の手引きの内容を精査し、生徒・保護者が必要な情報を盛り込む。進路だよりを学期1～2回程度発行し、生徒の進路に関する意欲を喚起する。	B	A	A	・進路指導部、学年が連携して「出口」を意識させる指導を実施した。生徒への情報の提供が一方通行にならないよう進路情報を精査し、またアンケート等を通じて生徒・保護者の意見を吸い上げられるようなシステムを構築したい。	・多忙化解消の視点から、Webページは年間を通した情報提供とし、他の媒体による配信を中心としてもよいと思う。 ・地域の行事に積極的に参加することも大事である。
		⑬自己の生き方と職業との関連を意識し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が75%以上である。	職業研究・大学研究を自発的に進められるような環境を整備し、自分の進路は自分で決める意識を高めさせる。低学年のうちから進路指導部主導の進路学習を組織的に進める。	A	A	A	・在校生保護者対象の授業公開を3回、探究発表会を2回、中学生対象の理数科体験入学を2回、中学生及び保護者対象の説明会を4回、入試相談会を3回、部活動公開を3回実施した。2回の実説明会及び、理数科体験入学については希望者全員に対応することができなかった。来年度については全希望者への対応を工夫していきたい。	
		⑭Webページによるタイムリーかつ魅力的な情報発信に努め、週1回以上の更新を行い、トピックの追加を行う。	開かれた学校づくりにむけ、現在の更新頻度を維持できるよう、定期的に職員に資料提供を求めていく。	C	B	B	・他の業務の多忙化により、webページの更新頻度が低下した。これにより、教員向けのアンケートでは配信が「不十分」との回答が14ポイント増加した。一方、他の媒体による配信が増加した結果、保護者からの「不十分」との回答は2ポイント増加に留まった。この差に留意し、次年度の運用方針を定めたい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮在校生保護者及び中学生を対象とした学校公開等を年10回以上実施している。	大運動会、授業公開、探究発表会公開、中学生対象学校説明会・部活動公開などをとおして本校の魅力を発信し続ける。	B	A	A	・在校生保護者対象の授業公開を3回、探究発表会を2回、中学生対象の理数科体験入学を2回、中学生及び保護者対象の説明会を4回、入試相談会を3回、部活動公開を3回実施した。2回の実説明会及び、理数科体験入学については希望者全員に対応することができなかった。来年度については全希望者への対応を工夫していきたい。	
		⑯PTA総会、各学年保護者会などの参加率は、全生徒数の50%以上である。配信されるPTA新聞の「見ました」の割合が全生徒数の80%以上である。	情報の発信については、保護者の周知度を高めるため、遅くとも一ヶ月前に連絡をする。配信版のPTA新聞にては、学校行事の様子がわかる写真を盛り込み迅速な配信を心がける。	B	A	A	・PTA総会、体育祭、学年保護者会等、3年生の保護者の方々の参加率が最も高く、学校行事への参加する割合が昨年度と比較すると若干高くなった。昨年同様にClassi配信等により本校の教育活動の情報発信に努めるとともに、新たなPTA活動のあり方についても引き続き模索していく。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰スタディサプリや教育プラットフォーム（ClassiやG Workspace）等を用いた課題指示又は配信を実施している教員が90%以上である。	入学時や年度初めのオリエンテーション等において、ICTの効果的活用に向けた生徒への指導を丁寧に行うとともに、職員へのICT導入支援も適切に行っていく。	B	B	B	・学習用端末の活用については、生徒では2ポイント、保護者では5ポイント、肯定的な回答が増加した。教員についてはほぼ横ばいとなった。BYOD関連の業務へのノウハウが蓄積できたため、次年度はより円滑な運営をしていきたい。
		⑱会議で配付される紙媒体資料は必要最小限であると認識している教員が95%以上である。	教務部と連携し、事前に会議資料をデータでまとめ、全職員が安全に閲覧できる環境を整える。	B	B	B	・ペーパーレス化に向けた取り組みは堅調である。今年度は、採点システムの導入や答案用紙のweb返却等、県全体での変革が多くあった。次年度はそれらの運用体制を整えることで、よりペーパーレス化を推進していきたい。	